

## 海外強化指定選手制度総括

## 【目的】

なでしこジャパンが2011年ドイツワールドカップ、2012年ロンドンオリンピックにおいてメダル獲得もしくは世界の頂点を目指すために、大会時になでしこジャパンの核となる選手たちに海外の高いレベルのトレーニング・試合を経験させ、個人の強化をはかることを目的として、2010年度にスタートした。

## 【今までの対象選手】

	最終所属チーム(国)	2010年	2011年	2012年
澤 穂希	ワシントンフリーダム(アメリカ)	→		
宮間 あや	アトランタビート(アメリカ)	→		
山口 麻美	ハマビーIF(スウェーデン)		→	
安藤 梢	FCR2001 デュイスブルク(ドイツ)			→
大儀見 優季	1.FFCトウルビネ・ポツダム(ドイツ)			→
鮫島 彩	モンペリエ HSC(フランス)			→
宇津木 瑠美	モンペリエ HSC(フランス)			→
熊谷 紗希	1. FFC フランクフルト(ドイツ)			→
合計		6名	6名	5名

## 【成果】

(チーム)

2011年ドイツワールドカップ優勝

2012年ロンドンオリンピック銀メダル

(個人)

この制度の目的である「個人の強化」を図ることが出来たことは明白である。特に共にドイツのチームでプレーし、攻守の要となったFW大儀見選手とDF熊谷選手の活躍は目覚ましいものがあった。

大儀見選手はブンデスリーグ(ドイツ)の1.FFCトウルビネ・ポツダムでプレー。ドイツワールドカップ、ロンドンオリンピックの両大会で攻撃の中心として活躍した。特にロンドンオリンピックではFWとして全試合に出場し3得点とチームの得点源となった。また守備においても前線からの積極的な守備でチームに貢献した。自分より大きく強い選手を相手にボールをしっかりキープし、攻撃の起点として機能した。

熊谷選手はブンデスリーグ(ドイツ)の1.FFCフランクフルトでプレー。ドイツワールドカップ、ロンドンオリンピックでセンターバックとしてフル出場した。自分より大きく、

強く、速い選手を相手に当たり負けせず、正確な技術と速い判断で相手攻撃陣を抑え、なでしこの守備の要として活躍した。

この 2 名以外にもドイツワールドカップ、ロンドンオリンピック両大会で左サイドのスペシャリストとして活躍した鮫島選手、特にドイツワールドカップで攻撃の中心として全試合出場した安藤選手、ロンドンオリンピックは怪我の為に選考から外れた宇津木選手等この制度を活用して海外でプレーしている選手全員がなでしこの中心選手になっている。

#### 【総括】

なでしこジャパンとして初のワールドカップ優勝、オリンピック銀メダル獲得の要因として、この制度の存在は大きかった。個人の強化を図ることを目的にこの制度がスタートしたが、上記 5 名の活躍でも分かる様にこの制度が見事に機能したと言える。日ごろのトレーニング環境の影響が大きいことは明白であり、今後も 2015 年カナダワールドカップ、2016 年リオデジャネイロオリンピックの頂点を目指す為にこの制度を継続したい。

(ご参考)

海外強化指定選手活動報告書 (2011,10 月) (写)